



## 都市創造学部完成を目指して

亜細亜大学都市創造学部 学部長

松岡 拓公雄

都市を廻る環境は刻々と変化している。その変化は我々の都市生活のライフスタイル、願望に追随している。経済、産業、外交など国内外の問題は複雑化し、少子高齢化の中で衣食住の世界は個から全体まですべてが、産業革命期に匹敵する急速な AI 化に後押しされ、大きく変わりつつある。結局は我々が環境を変えている。一方で、昨年自然の台風や地震の被害は甚大であり、高い確率の大地震の発表はされても大都市を含む地域に対して国の動き、都市への管理統制の対応策は見えてこない。豊かな未来を築くために、東京はオリンピック・パラリンピックを契機にした都市再開発は活気を呈している。しかし予想できる未来に想定外の未来が潜む事を危惧しながら、不安定な地盤の上で人々の日常生活は営まれている。我々はこの激動の社会を背景に、未来を担う頼もしい学生輩出を目指す教育の重要性を真剣に意識しなくてはならない。

さて、都市創造学部は完成まで後1年となった。この間、大学と各教員は様々な方法で都市創造学部の外部への発信、告知に尽力して来た。都市創造学部には多くの方々から新鮮な印象と期待をもっていたが、我々教員も確実に時代の背景に潜在している要求に応じている。4期生になる受験者数も昨年より急増し、都市創造学部という名前も定着の方向へ進んでいると確信できる。平成年度最後となる今年度は一期生のアジア・アメリカの海外留学経験者が各研究室に配属され、研究室の体裁も整いはじめ、ゼミ活動も動き出した。来年度に向けてさらに活動は活発になっていくであろう。

しかし、新たな課題も発生している。ひとつ目はカリキュラムの改良編成が必要となり、4年経過後に向けて議論を続けてきた。学部の骨格となる従来の「都市デザイン」と「都市コンテンツ」の大きなフレームを再構築し、外部や学生に分かりやすくするため学部のエリアを「都市創造重点基盤」に立つ「都市と社会」、「都市とビジネス」と「国際都市と留学」の三本柱とし、講義の再編成、再配置を検討中である。同時に教員の担当バランスもはかり、我々の構想している都市創造学をより良く学生に教授し、広く伝えるために教職員が一丸となって議論を続けているところである。

二つ目は二年生必修の全員長期留学の運営を支える体制の建て直しである。すでに二回実施した経験から、当初の計画段階では想定外の修正すべき課題を見いだす事ができ、関係部局との調整の中で解決に向けて目下進行中である。要は学生のために、どうすべきかが最重要課題である。

三つ目は未体験の学生就職活動支援である。キャリアセンターの支援を受け、すでに始まっている一期生の就職活動のサポートはまだ全体が見えない。支援に慣れてない教員も多いが、教員全員でゼミ学生を中心にしながらも全体を把握できる状況にしたいと考えている。我々の使命は、都市生活に社会貢献できる多くの人材を育成し、未来をにう基礎能力を磨いて来た学生らを社会へ輩出することである。このための努力はさらに続けていかねばならない。

完成時期前に前述の課題を抱えてはいるが、各教員は個々に教育、研究や社会貢献などの活動を着実に続け、対外的にも学部の特徴が知られ始めている。その報告の場がこの紀要である。一步一步、前進している事を他者にも理解していただけるように、幅広い学部活動を記録していきたい。